

しゅらさんいせき

# 首羅山遺跡の中国系石造物

所在地/糟屋郡久山町  
指定/有形文化財



首羅山遺跡山頂



薩摩塔（左：西側、右：東側）

2基と、一対の石造宋風獅子が安置されています。薩摩塔は、薩摩（※2）で初めて見つかったためにそう呼ばれている、九州西側にだけある珍しい石塔ですが、刻まれた仏像の姿や石の材質から、中国製であることが分かっています。宋風獅子も中国製です。両方も、今から約800年前に宋から渡ってきたもので、当時から宋とかかわりがあったことを今に伝えています。海外との交流の窓口だった、九州ならではの遺跡と石造物です。

※1 祠：神様や仏様をまつところ。

※2 薩摩：鹿児島県西部の昔の名前。

首羅山遺跡は、福岡平野の東側、糟屋郡久山町の、標高288.9mの山の中にある、古い寺院の遺跡です。山は高くはありませんが、遺跡は山の南側一帯に広がっていて、とても大きく感じられます。最も繁栄したのは鎌倉時代（今から約700～800年前）。宋（当時の中国）に留学して仏教の禅宗を学んできた悟空敬念（1217～1272）というお坊さんが、この山で活動していた頃のことです。

今は寺の建物は全てなくなっているものの、石垣や大きな建物跡、転がる瓦や焼き物のかけらに、昔の繁栄が感じられます。そのような首羅山で、寺院が滅んだ後も聖地として生き続けている場所があります。江戸時代の1747（延享4）年に建てられた石の祠（※1）を中心とする、山頂地区です。

祠の前には、薩摩塔と呼ばれる石塔が

## 【もっとくわしく調べたい】

○九州歴史資料館 小郡市三沢 5208-3 Tel 0942-75-9501

○久山町教育委員会 糟屋郡久山町大字久原 3632 Tel 092-976-1111